

# 熊本城 復興に向けて

## 〈19〉石垣の復旧

「熊本城復旧基本計画」には、平成28年熊本地震による被災石垣の復旧方針を次のように定めています。

**石垣は原則として「地震直前の状態」に復旧する**

- ・石垣の解体範囲は必要最小限とする。
- ・石垣等の復旧は、伝統工法を基本とする。
- ・安全確保と文化財価値の保全を両立する。
- ・適切な文化財調査と成果の検討を行う。

被災石垣の復旧は「災害復旧」であることから、江戸期に戻す整備までは行わず、地震直前の状態に復旧します。しかし例外となる場合として、以下のことを想定しています。

- ①地震直前の状態が、既に安全上危険な状況にあるなど、構造上の問題を有していた場合(例:ズレ・膨らみなど)
- ②伝統工法だけでは石垣を安全に公開することができないと判断される場合(必要最小限の現代工法による構造補強を検討)
- ③地震直前の状態が、明らかに後世の補修などによって、工法・素材などが変更され、文化財価値を低下させていた場合(例:間知石使用・練石積工施工など)

このような復旧方針を踏まえた上で、現在熊本城では作業が進んでいます。特に崩落した石垣を地震前の姿に戻すのは容易ではありません。

まずは地震前の写真を探します。次に石材1つ1つに番号を付け、測量して崩落していた位置が分かる資料を作ります。ここまで作業が進んだところで、ようやく石材回収作業が始まります。石材は再度利用するため、丁寧に一石ずつ回収を行います。回収が済んだ石材の観察、写真撮影などを実施して、集めていた地震前の写真と見比べ、地震前にどこに積んであったのかを1石ずつ探していきます。崩落の規模が大きい箇所では約2,000石もの石材が崩れ



▲崩落した小天守石垣石材を回収

ており、容易には見つけることができません。その上、地震前に撮影された写真は全ての石垣が正面から石材の形が分かりやすいように撮影されたものではありません。斜め方向から撮影されたものや、木で隠れて全体が写っていない写真も多いです。崩落していた場所を示す図面は、地震で石垣が崩れる際の石材の動くパターンや、崩落地点から地震前の位置をある程度推測することができることから、石材の元位置を探すのに役に立ちます。

石材の元位置を探すのと同様に難しいのが、地震前の石垣の形状を考えることです。地震前の測量データがあれば元の形状が分かるのですが、熊本城では地震前の石垣形状が分かるような測量データは少なく、崩落しなかった箇所、変状が大きい箇所から推測するしかありません。

石垣を復旧するためには、数多くの課題があります。その一つ一つを石垣復旧に携わる関係者達が知恵を絞り、最高の技術を注ぎ込んで文化財的な価値を落とさず、地震前の石垣の姿をとり戻せるように日々努力しています。